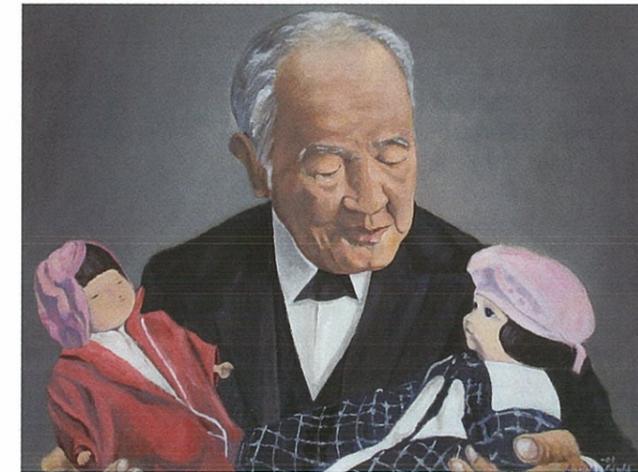


渋沢栄一関連年表

西暦	元号	年齢	主なできごと
1840	天保11年		2月13日、武蔵国榛沢郡血洗島（現深谷市）に市郎右衛門、えいの子として生まれる
1858	安政5年	19	尾高惇忠の妹、ちよと結婚（ちよ18歳）
1863	文久3年	24	高崎城乗っ取りを計画するが、尾高長七郎（尾高惇忠の弟）の説得により中止。京に上る
1864	元治元年	25	一橋家の用人、平岡円四郎のはからいで喜作とともに一橋家に仕官する
1867	慶応3年	28	将軍徳川慶喜の弟昭武に従い、フランスのパリ万博に随行
1868	明治元年	29	フランスより帰国。一時静岡藩に仕える
1869	明治2年	30	明治政府に仕官。租税正となる
1870	明治3年	31	官営富岡製糸場設置主任となる
1873	明治6年	34	大蔵省を辞し、第一国立銀行総監役となる
1874	明治7年	35	養育院の事務をつかさどる
1878	明治11年	39	東京商法会議所設立
1882	明治15年	43	妻ちよ死去。東京専門学校（早稲田大学の前身）開校
1883	明治16年	44	伊藤兼子を妻に迎える。大阪紡績開業
1885	明治18年	46	東京府の経営廃止条例の決定により、養育院の存続に努力する。東京瓦斯開業
1887	明治20年	48	深谷市に日本煉瓦製造会社の工場開業
1888	明治21年	49	東京女学館開校
1890	明治23年	51	帝国ホテル開業
1900	明治33年	61	男爵を授けられる
1901	明治34年	62	日本女子大学校開校。
1902	明治35年	63	アメリカ及びヨーロッパ諸国を兼子夫人と共に訪問し、国際親善に努める
1908	明治41年	69	中央慈善協会（全国社会福祉協議会の前身）設立
1909	明治42年	70	渡米実業団の団長としてアメリカへ渡る
1911	明治44年	72	恩賜財団済生会設立
1914	大正3年	75	中日実業株式会社の設立を機に中国を視察し、親善に努める
1916	大正5年	77	実業界から引退し、社会公共事業に尽力する。血洗島諏訪神社に拝殿を寄進する
1920	大正9年	81	子爵を授けられる
1921	大正10年	82	ワシントン軍縮会議の視察を兼ねて渡米し、平和外交を促進する
1923	大正12年	84	関東大震災が起こり、大震災善後会副会長となる
1927	昭和2年	88	日本国際児童親善会長として、日米の人形交換に努める
1929	昭和4年	90	宮中に参内、御陪食の光栄に浴する
1931	昭和6年	92	11月11日永眠

※年齢は数え年で表記しています

油絵で見る渋沢栄一の生涯



深谷市出身の実業家で、近代日本経済の父と言われる渋沢栄一は、第一国立銀行をはじめとした金融、海運、陸運、食品など様々な業種の約500の企業の設立に関わりました。一方で養育院をはじめ医療、教育、国際親善など600にもおよぶ社会福祉事業にも携わりました。

渋沢栄一の生涯を油絵で描いている市内在住の渋沢敦雄氏の油絵により、渋沢栄一の生涯の一端を紹介します。

深谷市

油絵で見る渋沢栄一の生涯

1. おえいの羽織



栄一の母「えい」は、寒い北風が吹くと栄一に風を引かせないように、羽織を持って栄一の遊び場所を探しました。村人は、こうした「えい」の姿を「おえいの羽織」と呼んでいました。

2. 藍香に学ぶ



栄一は6歳になると父から勉強を教えてもらいました。7歳になると学者の尾高藍香に勉強を教えてもらうようになりました。夜になると毎日一人で藍香の家に通って勉強にはげみました。

3. 藍葉の買い付け



栄一は14歳になると、一人であちこちの村へ藍葉の買い付けに行きました。大人たちは、栄一を子どもだと思って最初は相手にしてくれませんでした。しかし、栄一の藍葉の知識におどろいた村人たちは安く売ってくれるようになりました。

4. 江戸での栄一



江戸に留学した栄一は、海保漁村（学者）の塾生となり学問を学び、千葉道場では剣法を学びました。そこで多くの志士（国のために力を尽くす人）や剣客と交友を深めました。

5. 暴挙計画



江戸から帰った栄一は、夜になると若ものたちと討幕（幕府をたおすこと）の計画に明け暮れました。しかし、この無茶な計画は、いとこの尾高長七郎に止められてしまいました。

6. 一橋家に仕える



討幕計画によって幕府に追われた栄一たちは京都にのがれました。そこで、一橋家の重臣（くらの高い侍）平岡円四郎に勧められて一橋家に仕えることになりました。

7. パリの下水道



ナポレオン三世からパリ博覧会に招待された慶喜（15代将軍）の弟・昭武のお供で、栄一はヨーロッパに行きました。一緒に行った侍たちが外国の生活になれない中で、栄一はヨーロッパの進んだ文明を次から次へと見学して、日本のために役立てました。

8. パリを視察する栄一



栄一はフランスで髪を切り、洋服を着て、フランス語を覚え、進んだヨーロッパの文化を積極的に取り入れようと努力しました。徳川昭武の信頼も厚く、様々な視察のお供に栄一を連れて行きました。このときの経験が、日本に帰ってからの栄一の活躍にとっても役立ちました。

9. 商法会所を興す



栄一は慶喜のいる今の静岡で生活しようと思い、商法会所をつくりました。この商法会所のおかげで人々の生活も豊かになりました。

10. 明治政府に仕える



栄一は明治政府に仕える気はまったくありませんでした。しかし、大隈重信などに「今の日本は大切なときである、日本の国のために尽くせ」と言われて明治政府に仕えました。

11. 第一国立銀行



栄一は井上馨といっしょに明治政府をやめました。栄一の本当の人生はここから始まっているのです。最初に第一国立銀行をつくりました。この銀行は株式組織による最初の銀行です。英語のバンクを銀行と訳したのも栄一です。

12. 岩崎弥太郎と対立



岩崎弥太郎は三菱財閥をつくった人です。ある日、栄一は岩崎弥太郎に招待されました。そして、二人で組んで事業を行なおうと相談を持ちかけられました。しかし、栄一は国民みんなが豊かになることを目指していたので、それを断りました。

13. 大阪紡績



大阪紡績は、栄一が中心となり、関西の実業家や華族が出資し、明治16年（1883年）に操業を開始しました。イギリス製のミュール紡績機の採用、火力による発電、夜間に電灯を用いた昼夜2交代制など、当時としては最新・最大の設備を誇る近代的紡績工場でした。

14. 故郷に帰る



栄一は24歳で故郷を去りました。年をとってからは、毎年秋になると諏訪神社の獅子舞を楽しみに故郷に帰ってきました。

15. インドへ出航する広島丸



栄一は、前々からずっとインド綿花輸入のためのボンペー定期航路の開設を計画し、インドのタタ商会・大日本紡績聯合会・日本郵船との間をとりもち、11月、その第一船広島丸を神戸より出航させました。イギリスのピー・オー汽船会社に独占させないようにするためでした。

16. 養育院にて



栄一は、恵まれない子どもや人びとのためにたくさん社会福祉の仕事をやってきました。こうした栄一のやさしい心は、論語の教えや母のやさしい心を引きついでいるのです。

17. 慶喜の墓前に供える



栄一が中心になって20年以上もかけて、慶喜の伝記を書きました。栄一は慶喜の本当の偉さを一番よく知っている人です。そして、たいへん尊敬していました。栄一は慶喜の命日になみだを流して伝記を墓前に供えました。

18. アメリカで講演する栄一



82歳。渡米。ワシントン軍縮会議の成功を願って日米親善のための講演を行い、米国の財界人に多大な感銘を与えました。栄一の渡米は、これ以前の明治35年（63歳）・同42年（70歳）・大正4年（76歳）の3度の渡米を含め、全部で4回にも及びました。

19. 国際親善



大正13年6月、来日中のタゴール（インドの詩人・思想家、ノーベル賞を受賞）を飛鳥山邸に招待しました。タゴールは2回来日しました。

20. 青い目の人形



明治から大正にかけて日本とアメリカの関係が悪くなり、昭和になってもまだ良くなりませんでした。このことに栄一はたいへん心配をしました。その時ニューヨークのギューリック博士から人形を通して日本とアメリカが仲よくしようと、アメリカから12,739体の人形が贈られてきました。そして日本の人々の心に大きな感動をあたえました。後に日本からも58体の日本人形をお礼としてアメリカに贈りました。

21. 栄一を見送る人々



栄一の葬儀は11月15日に東京の青山斎場で仏式により営まれました。葬儀当日、飛鳥山の本邸を出る栄一を乗せた車は、多くの人々に見送られました。そして、栄一は、だれからも尊敬されていたため、葬儀に参列した人は数千名を越えました。

22. 栄一と関わりを持った人々



尾高長七郎 父・市郎右衛門 母・えい
 妻・千喜 代作
 徳川慶喜 尾高惇忠
 井上馨 長女・歌子
 岩崎弥太郎 大隈重信
 大久保隆盛 西郷隆盛
 伊藤博文 大久保利通
 ギューリック博士 井上馨

渋沢栄一が関わった会社及び社会福祉事業

第一国立銀行（現みずほ銀行）・王子製紙・東京海上保険（現東京海上日動火災保険）・日本鉄道（現東日本旅客鉄道）・東京瓦斯・帝国ホテル・東京貯蓄銀行（現埼玉りそな銀行）・大日本麦酒（現アサヒビール、サッポロビール）・秩父セメント（現太平洋セメント）・日米電信（現KDDI）・富岡製糸場・東京商業会議所（現東京商工会議所）・養育院・中央慈善協会（現全国社会福祉協議会）・恩賜財団済生会・聖路加国際病院・一橋大学・早稲田大学・日本女子大学・埼玉学生誘掖会・日仏会館など